

II 新市の概況

1 位置と地勢

新市は、大分県の西北端に位置し、東は宇佐市・宇佐郡、南西は玖珠郡・日田市、北西は福岡県に接し、北東は周防灘に面しています。地域全体の面積は491.08km²、中津地域を中核としています。地域は、北部が狭く、南部は西方に大きく張り出した形状を示し、西端には英彦山がそびえ、地域を貫流する山国川の分水嶺となっています。

山国川は、その流域面積は540km²(福岡県側も含む)、幹線流路延長は56kmで、平地部の少ない扇形状の急流河川です。上中流部は浸食地形による溪谷が多く、山地部が大部分を占め、その地質構造から形作られた自然の景観は、鮎帰りの滝・競秀峰・御筆峰・猿飛の甌穴群・一目八景などの景勝地を誇る耶馬溪(国指定名勝)の名のもとに、年間380万人あまりの観光客を集めています。また、三光村、本耶馬溪町、耶馬溪町、山国町は、昭和25年に指定された耶馬日田英彦山国定公園の区域に含まれています。下流部は、山国川を県境とし、左岸部は福岡県、右岸部は大分県となって段丘地形中津平野を形成しています。

2 気候

中津下毛地域を含む大分県北部の気候は瀬戸内海気候区に属し、冬は北九州方面や関門海峡からの季節風の影響で天気が悪く、曇りの日が多くなっています。

中津市における平成14年の平均気温は16.4℃で、大分県のなかでは比較的気温の高い地域です。

平成14年の年間降水量は、中津市が1,295mm、耶馬溪町が1,696mmで山間部は平地部に比べて降水量が多くなっています。

3 面積

新市の総面積は491.08km²で、県全体の7.7%を占め、その77.5%は山林原野です。山国川下流の中津市と三光村の平野部にまとまった農地が開けていますが、中山間部の本耶馬溪町、耶馬溪町、山国町の3町では山国川支流に農地が点在するものの、総じて狭隘となっています。耕地面積は45km²で全体の9.2%、宅地面積は16km²で全体の3.3%を占めていますが、耕地面積は減少する傾向に、宅地面積は増加する傾向にあります。

IV 新市建設の基本方針

1 新市の将来像

中津下毛地域の市町村の総合計画に示されているまちづくりの理念や将来像は、以下のとおりとなっています。

- 人と自然に優しい魅力都市なかつ(中津市)
- 美しい自然と文化に包まれた快適で豊かな田園生活圏の創造(三光村)
- 生活が息づくみどりと溪谷の町、本耶馬溪町(本耶馬溪町)
- 豊かな自然とぬくもりの心が創り出す活力あるまち(耶馬溪町)
- 人と自然が共生するところ豊かなアメニティタウン(山国町)

このようにいずれも、本地域の特色である豊かな自然環境に基礎をおき、人と人の繋がりや心の豊かさを大切にしながら、快適な生活環境の創造を目指すこととしています。新市においても、地域住民一人ひとりが自然の恵みに感謝するとともに、この豊かな地域資源を次の世代に引き継いで行く気持ちを育てることが必要ではないかと考えます。

本地域を貫流する山国川は、古来より人々の生活を支え、個性豊かな地域文化を育んできました。また昨今では、「源流まつり」などのイベントに代表されるように、地域おこしや地域間交流の場とともに、リバーツーリズムなど新しい観光・レクリエーションの場としてその大きな役割を期待されています。さらに、本地域の中山間地は「耶馬日田英彦山国定公園」の一角をなし、名勝耶馬溪に代表されるように、県下でも有数の観光地として知られるところが多く、また、地域の8割近くにも及ぶ豊かな森林は、水源かん養等の多面的機能を持ち、有形、無形の恩恵を我々に与えてくれています。新市においては、住民にとってかけがえのないこれらの自然環境を守り育てることにより、21世紀に人類が取り組むべき課題である、地球環境との共生と資源循環型社会の建設を目指します。

21世紀に入り、社会経済情勢はめまぐるしく変化していると同時に、人々の価値観も多様化しています。特に今後、少子・高齢化が益々進行していくことが予想されることから、人々のニーズに沿った福祉・保健、医療、教育等の充実、新市民が安心して生きがいもてる生活を支えるとともに、未来を担う人材の育成を進めるためにも重要です。また、人権尊重社会の確立とともに、女性の社会進出の促進や男女差別の解消を図るため、男女共同参画社会の実現により、新たな地域社会の形成を目指します。

本地域の農林水産業は、産地間競争の激化や担い手の高齢化、新規参入者の減少により、安定した経営を行う担い手の確保が急務となっています。一方で、森林や農地がもつ公益的機能を持続的に発揮できるよう、その保全を積極的に行い、生産、流通、加工体制を整備することにより、資源の循環利用を促進します。また、グリーンツーリズムなど、新たな展開による一次産業の活性化が進められようとしています。新市においては、これらの展開を踏まえ、担い手の育成や経営基盤の強化とともに、自然環境と調和した農林水産業の振興により、地域経済の活性化を図ります。

また、本地域は県内でも有数の工業集積を誇り、県北経済の重要な拠点としての位置づけを担ってきましたが、平成16年のダイハツ車体㈱の操業により、益々産業の高度化が進むものと期待されることから、今後も、産・学・官の連携を強化するとともに、情報通信基盤や港湾、道路などの産業基盤の整備を推進します。

さらに、中心市街地や集落拠点の商業機能の衰退に歯止めをかけ、顧客を取り戻すために、新市全体として商業機能の再構築を目指します。また、今後の成長産業として見込まれる観光・レクリエーションを振興するために交流施設や宿泊施設の整備を促進することにより、新市における交流人口の増加を図ります。

以上のことを基本として、新市の将来像を次のとおり定めます。

山国川の「みず」と耶馬の「もり」のめぐみを受け、
「ひと」が育ち、癒され、たゆみなく「もの」がうまれる、
「人にやさしい」新しいまち“なかつ”

